

平成28年度 維新小学校 学校評価書 別紙

(A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

学校経営目標 (プロジェクト)	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	評価		改善方策
1 確かな学力の育成 ・授業力向上 ・家庭学習の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・「進んで表現する児童の育成」という研究主題のもと、校内研究を充実するようにする。 ・モジュール学習(国・算・英)を位置づけ、前年度までの内容を反復学習することで、学習の基礎基本を身につけることができるようにする。 ・家庭での学習習慣が定着するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業は分かりやすい。」という回答が85%以上である。(児童・保護者アンケート) ・CRT学力検査(算数)で平均得点率が上がる。(得点率) ・家庭学習の目標時間である(学年×10+10)分以上学習している児童が80%以上である。(児童・保護者アンケート) 	学校評価アンケート(11月実施)において、「授業はわかりやすい」という肯定回答は、児童が92%、保護者が95%であったことから、教材研究や研究授業等の研修や、モジュール学習の成果が現れたと考える。また、家庭学習の目標学習時間である(学年×10+10)分以上学習している児童は74%、保護者からは73%であり、達成できていなかった。 CRT学力検査は3学期実施のため、現在のところ達成状況は不明。	B	家庭学習実態調査が計画通り実施できなかったため、家庭学習の実態把握がうまくなされなかった。実態把握に努めるとともに、家庭学習の大切さについて児童や保護者に啓蒙していきたい。 モジュール学習のあり方については、今後もあり方について研究を進めていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の取組週間を行っていないときも、子ども達が主体的に家庭学習に取り組むことができるようになることが大切。
2 健やかな体づくりの推進 ・業間遊び、業間運動の充実 ・基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の保持増進・体力向上を図るために、業間遊びや業間運動を充実させる。 ・児童の基本的な生活習慣の確立に向けて、生活チェック(きらり☆カード)の取組を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「業間に、体を動かして遊ぶのが楽しい」という回答を85%以上にする。(児童アンケート) ・「早ね・早おき・朝ごはんに気をつけて生活している。」という回答を85%割以上にする。(児童・保護者アンケート) 	「業間に、体を動かして遊ぶのが楽しい」と回答した児童は87%であり、目標値を上回った。学年を超えて、サッカーや鬼ごっこなどを楽しんでいる様子が見られている。しかし、遊びが固定化しているため、多様な遊びができているとは言えない。 「早ね・早おき・朝ごはんに気をつけて生活している」と回答した児童は74%、保護者は91%であり、児童の回答については目標値を下回った。生活習慣の乱れから、遅刻して登校したり、昼間の眠気やだるさを訴える児童もいる。	B	業間運動、業間遊びについては、これから寒くなり、運動量が減少することが予想されるので、体育館の開放や魅力ある遊びの提案などにより、運動時間の確保に努めたい。 生活習慣については、家庭差・個人差が大きく、学校からの呼びかけだけでは保護者の意識を高めることが難しくなっている。PTA主体の活動も取り入れるなど、学校だけでなく、家庭も一体となった取組にしていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○早寝、早起き、朝ご飯のうち最も難しいのは早起きではないか。学級懇談等で、保護者同士が情報交換を行い、目安の時間に就寝できるようにする。 ○朝ご飯は全員食べることでできていると思うが、朝ご飯の内容も重要。
3 心の教育の充実 ・品格教育の継続、推進 ・道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・品格教育を継続・推進する。 ・「あいさつができる子」「思いやりがあり、友達と仲良くできる子」を育成するための道徳教育を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進んであいさつができている。」という回答が90%以上である。(児童・保護者・教職員アンケート) ・「友達の気持ちを考えて行動している(人を思いやる優しい気持ちが育っている。)」という回答が90%以上、「友達は自分のことを考えて行動してくれている。」という回答が80%以上である。(児童・保護者・教職員アンケート) ・「学校に行くのが楽しい。」という回答が80%以上である。(児童・保護者・教職員アンケート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ進んであいさつができている。 ・ほぼ達成できている。 	A	あいさつの大切さを伝えると共に、心と心の通い合うあいさつをめざして、継続して声を掛けていく。 結果の中で、個別に対応していく必要な児童がいることも明らかになった。職員同士や家庭との連携を深めながら、対応していく。	<ul style="list-style-type: none"> ○転校生をみんなで受け入れ、互いに楽しく過ごすことができていることが素晴らしい。
4 地域を生かした教育の推進 ・地域を生かした生活科、総合的な学習の計画・実践	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源や人材を生かした生活科・総合的な学習の時間の計画、実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の人に教えてもらったり、清梁園などの交流を行ったりすることは大切なことだと思う。」という回答が90%以上にする。(児童アンケート) 	「地域の人に教えてもらったり、地域の人と交流したりすることは大切なことだと思う」という項目に対して、児童の91%から「よくあてはまる」という回答を得ることができた。 運動会や学芸会等の合同行事や様々な農業体験、環境整備、お話ポケットや登校指導等、地域の方から多大な支援を受けることができていく。できるだけ直接会って連絡調整を行い、地域の方とのつながりを深めていくように心掛けた。	A	学校の行事や学習活動を通して個々の児童が地域の方と触れ合うことは、児童の心の中に郷土愛を育んでいく上で大切なことである。今後も地域の方との信頼関係を深めるとともに、感謝の気持ちが根底に流れるような学習活動を工夫していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ○現状を継続できるようにして欲しい。
5 幼小中一貫教育の推進 ・幼小中で連携した事業推進(英語特区の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小中一貫教育として、維新幼稚園・昭和小学校・昭和中学校と連携し、事業を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学校区で幼小・小小・小中連携をして良かった」という回答を90%以上にする。(児童・保護者・教職員アンケート) 	「中学校区で幼小・小小・小中連携をして良かったか」というアンケート結果では、児童は78%、保護者は100%、教職員は100%から肯定的な回答を得ることができた。しかし、児童にとっては「楽しかったかどうか」が判断基準になりやすく、交流の意義については目が向きにくい面がある。 ピアサポート、乗り入れ授業、合同授業、あそぼうデーのいずれも、概ね計画通りに実施できている。	B	幼小中の交流活動に対して、やや否定的な回答をしている児童が少し見られる。今後の活動場面において個々の児童の様子に配慮しながら支援をしたり、活動の事前や事後の取組を充実させたりしていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ○幼小中の交流活動は、数を重ねて顔なじみになることが大切である。子ども一人一人が活動の輪に入れるように工夫していく。また、交流活動の意義についても伝えていく。有意義な取組なので無理のないよう継続して欲しい。